

を所立あり江戸城に入らせ玉ふなり

近玉の諸將為加勢山形馳集了

一 吉村の家康云ふ所の書七月廿三日山形へ宛来し義
光と相見を遊れ金津表頼入の義所收ふるに作
せざるは官近玉の諸將は加勢をくく山形へ来集ある
爲き由所不知有くばしり事も不りに馳集り軍評定
有りて米澤口より押入し然る家康公は又子共追付
以進められぬしそ近玉の諸將著列し付るは先南部
信濃守五千金部秋田藩太郎二千六百部戸沢九郎
五郎三百金部赤尾孫四郎二百金部仁賀保兵庫

百八十部識は刑部百千金部内越孫四郎六千金部
岩田守金部四千金部とを付しり右の人々評美
して堅く一隊同士の起征文部の出羽守處へ出たり
義光公は先米沢口より攻入しと修理左美義康
七千金部其外諸將部屋を方六千金部南部信濃守
と先陣とて附くは打出其日は山形近所には取る能ふ所は
上方にて石田治部少輔叛逆して望所の諸大名大言味を
伏見大津の城を攻めざる官家康公は父子を引付け
の由諸將の陣も告来るこれに依て川津も大にちるべき
諸玉押あて起其我々領内にも如何なるの出来せ